

神戸市消防基本計画

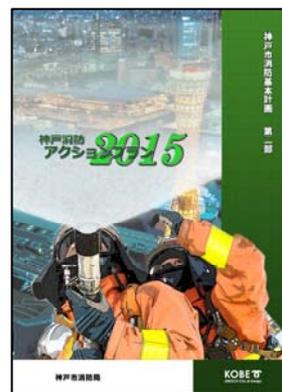
～ひと・まち・きずなで安全安心都市こうべを築きます～

概要版



【第一部】神戸消防グランドデザイン2025

【第二部】神戸消防アクションプラン2015



2011年3月
神戸市

はじめに

1995年1月17日、多くの尊い命、住み慣れた街並み、そして私たちの大切なものを一瞬にして奪い去った「阪神・淡路大震災」から16年が過ぎました。

震災により無念にもお亡くなりになりました方々に、心より哀悼の誠を捧げます。

震災のあの日から今日まで、神戸のまちは、国内外の大きな支援に加え、市民の皆さまの自分たちの力でこの神戸を再生するんだという熱い思いと力強い歩みにより、復興への道のりを歩んでまいりました。

震災から16年たった今、市民の約4割の方が、震災を知りません。

私達は、「いのちの尊さ、大切さ」「人と人との絆、支えあう心」「思いやりや助け合い」など、たくさんの「経験」や「教訓」を得ました。

震災を風化させないために、また、今生きている者の責務として、震災で得たこの教訓を後世に継承していかなければなりません。

この度、神戸の安全・安心への取組みを推進していくため、神戸市消防基本計画を策定し、「神戸消防グランドデザイン2025」として、安全で安心な神戸のまちの将来像を描くとともに、「ひと・まち・きずなで安全安心都市神戸を築きます」を基本理念に、「備えることの大切さ」や「助け合い」など、「自助」、「共助」、「公助」の取組みをさらに推進してまいりたいと考えております。

また、「“神戸らしさ”にプラスの視点」として、計画に“こども”の視点と“おもてなし”の視点を新たに取り入れ、神戸に住み、働き、学びそして訪れる方々の安全・安心への取組みを進めてまいります。

計画の実現に向けて、“人財”の絆を深めながら、市民の皆さまと協働して創る“協創”により、安全で安心な神戸のまちの将来像を実現してまいります。

最後になりますが、本計画策定中の2011年3月11日に、東北地方を襲う大地震が発生し多くの方が犠牲になりました。心からお悔やみ申し上げます。

また、甚大な被害を受けられた方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

被災地の復旧・復興に向け、今後とも長期にわたる活動が必要となってきます。

私達は、阪神・淡路大震災で全国から多くの支援を頂きました。今度は被災地の皆様のために、神戸での震災の教訓を活かした支援を全力で行ってまいります。

2011年3月

神戸市長 矢田 立郎

はじめに

目次

計画の概要

1 計画の構成・位置付け	
(1) 計画の構成	1
(2) 計画の位置付け	1
2 計画の期間	2
3 計画の見直し	2

【第一部】神戸消防グランドデザイン2025

1 全体図	3
2 2つの“神戸らしさ”にプラスの視点	4
3 5つの安全で安心な神戸のまちの将来像	5
4 計画の着実な実現	
(1) 計画の着実な実現に向けて	8
(2) 具体的な施策について（神戸消防アクションプラン）	8

【第二部】神戸消防アクションプラン2015

1 位置付け	9
2 期間	9
3 アクションプラン策定のポイント	9
4 構成	10
5 主な取組み	
(1) “神戸らしさ”にプラスの視点	11
(2) まちの将来像ごとの主な取組み	12
・安全安心都市こうべの実現に向けた市民・事業者・行政の役割分担	18
・将来像を把握するための指標一覧	19
6 神戸消防アクションプラン 2015 の検証・評価	
(1) 「“神戸らしさ”にプラスの視点」の検証・評価	20
(2) 「安全で安心な神戸のまちの将来像」の検証・評価	21
・【資料1】次期消防基本計画策定経過	22
・【資料2】次期消防基本計画検討会委員一覧	22

計 画 の 概 要

1 計画の構成・位置付け

(1) 計画の構成

神戸市消防基本計画は、2025年までの中長期的な取組みの方向性を示す「神戸消防グランドデザイン2025」（第一部）と、5年間の主な具体的施策・事務事業をまとめた「神戸消防アクションプラン」（第二部）の2部で構成します。

【第一部】神戸消防グランドデザイン2025

神戸市において、今後考えられる社会潮流と消防に関する主な課題を整理したうえで、まちの将来像の実現のため、協働して取組むべき施策の方向性を示します。

【第二部】神戸消防アクションプラン

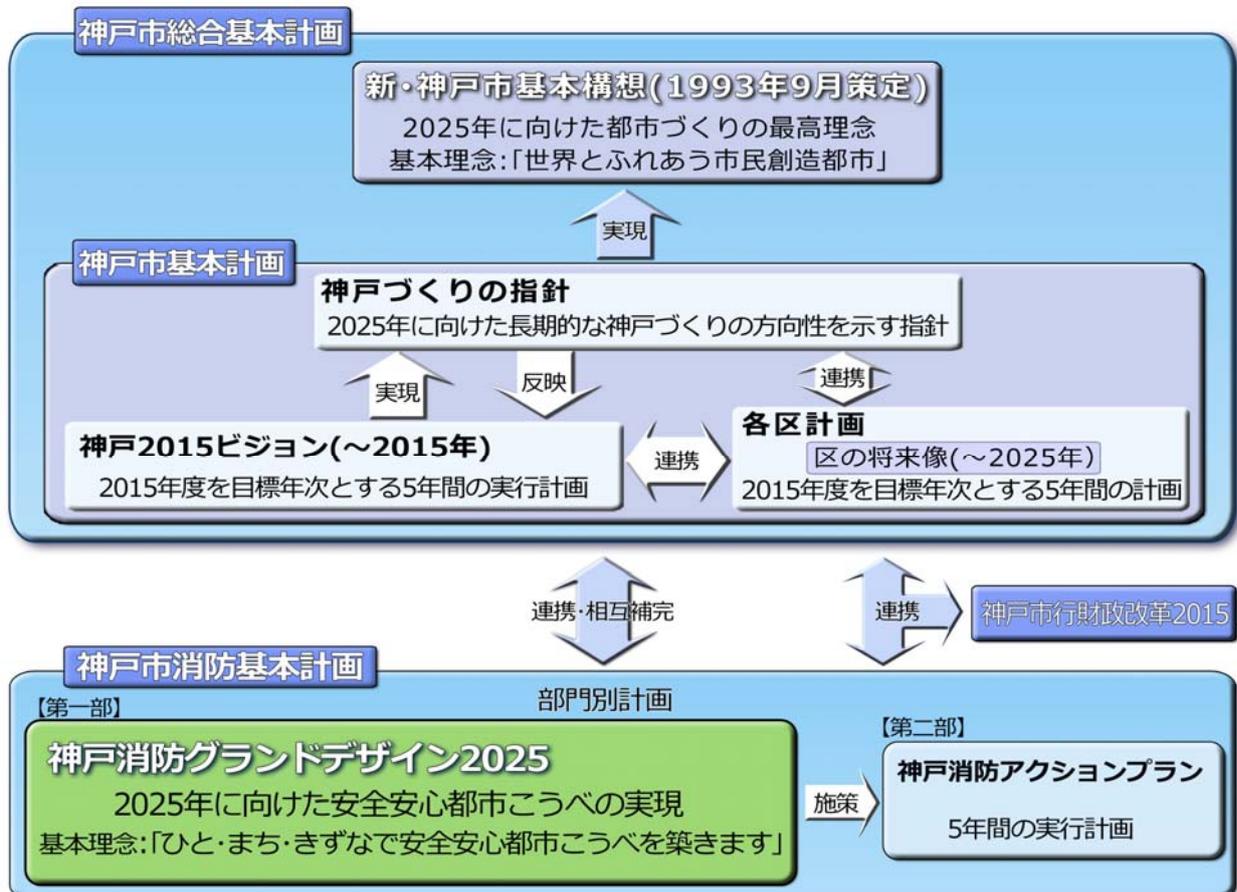
上記の方向性を受け、5年間の具体的な施策や事業を体系的にとりまとめ記載します。

また、これまでの「神戸2010 消防基本計画」や「消防体制の再構築」、「東灘区工場火災（消防職員殉職事案）での事故調査委員会答申」について、実施してきた具体的な施策等整理したうえで、アクションプランに反映させるとともに、PDCAサイクルによる計画の進行管理を行う“仕組み”についても構築します。

(2) 計画の位置付け

神戸市消防基本計画は、同じく2025年度を目標年次とする、神戸市基本計画（「神戸づくりの指針」、「神戸2015 ビジョン」、「各区計画」）と相互に補完・連携を図る部門別計画として位置付けています。（図1）

図1 【神戸市総合基本計画と神戸市消防基本計画との関係】



※【第一部・第二部】を合わせたものを「神戸市消防基本計画」と呼ぶ

2 計画期間

【第一部】 **神戸消防グランドデザイン2025** (15カ年計画)

「神戸づくりの指針」と同じく、2025年を目標年次とします。

【第二部】 **神戸消防アクションプラン** (5カ年計画：前期・中期・後期)

「神戸2015ビジョン」と同じ2015年を目標年次として、神戸消防グランドデザインの目標年次である2025年までの15カ年間のうち、前期5カ年間にあたる2011年度～2015年度を計画年次として策定します。(図2)

その後、中期計画(～2020年度)・後期計画(～2025年度)を5年ごとに策定していきます。

図2【それぞれの計画目標年次】

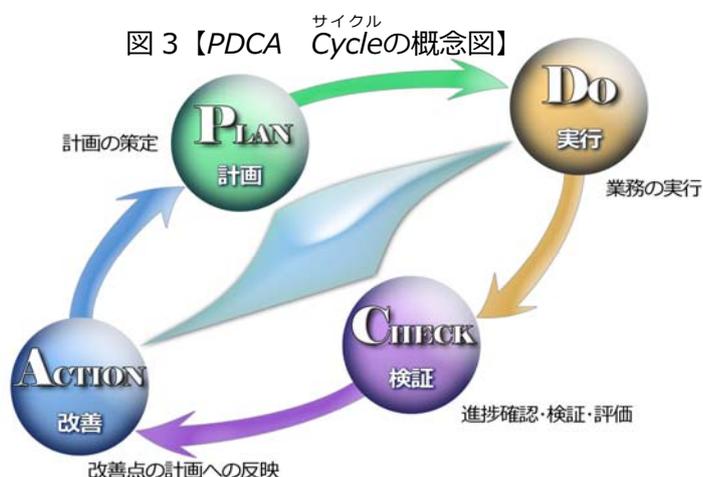


3 計画の見直し

「神戸消防グランドデザイン2025」については、神戸を取り巻く社会潮流や災害傾向などを踏まえ、2025年に向けての神戸の安全で安心なまちの将来像を描くとともに、その実現のため取り組むべき施策の方向性を示しています。

ここでは、さらなる急激な社会変化や予期せぬ災害の発生など、計画を進めていく上で見直さなくてはならない事象が発生した場合に柔軟に対応するため、計画の見直しを行っています。

また、神戸消防アクションプランに盛り込まれる各具体的施策・事業については、年度ごとにPDCAサイクルによる進行確認をするとともに、「まちの将来像」ごとに検証・評価を行い、次年度に向けた改善を行います。(図3)



【第一部】神戸消防グランドデザイン2025

1 全体図

基本理念

ひと・まち・きずなで安全安心都市こうべを築きます

基本方針

- 基本方針1 すべての「ひと」が目頃から防災について考え、取組みます
- 基本方針2 安心して暮らし集える、安全な「まち」こうべをつくります
- 基本方針3 人としての「きずな」を大切に、みんながともに助けあいます

“神戸らしさ”にプラスの視点

PLUS “こども”の視点

将来の防災を担う人材として、子ども達を守り育て、次世代に繋げます

PLUS “おもてなし”の視点

すべての人へ“防災”を通じた“おもてなし”に繋げます

2025年 安全で安心な神戸のまちの将来像

将来像1

みんなで安全・安心に取り組むまち

- (1)いざという時、地域みんなで助けあえるよう、日頃から、ゆるやかな連携が進んでいる
- (2)日常的な事故防止や住宅防火対策のため、家庭での安全・安心に取り組んでいる
- (3)災害の防止やリスクの軽減のため、事業所や危険物施設などの自主防災体制が充実している

将来像2

防災への心を育むまち

- (4)震災や水害など、災害文化を伝えるため、世代を超えた防災教育が充実している
- (5)普段から市民の防災意識が高まるよう、必要な防災情報が発信されている
- (6)防災のプロとして、消防職員・消防団員への研修・訓練体制が充実し、市民に開かれた消防署・消防団がある

将来像3

命を大切に考え取り組むまち

- (7)応急手当の普及が進み、命を救うため「救命のリレー」が、充実している
- (8)助かる命を救うため、救急業務の高度化の推進や、救急隊員への研修教育体制の充実が図られている
- (9)救急サービスの向上のため、救急需要対策や、適切な救急車の配置が進められている

将来像4

消防サービスが行き届くまち

- (10)誰もが安心して消防サービスを受けるため、消防需要に応じた消防署や車両等が整備されている
- (11)市民サービスの向上のため、ICT（情報通信技術）などを積極的に活用している
- (12)社会情勢の変化に柔軟に対応するため、消防の組織づくり、体制づくりが図られている

将来像5

あらゆる災害に備えるまち

- (13)地震等大規模災害に対応するため、広域応援体制の整備や、大学など他機関と連携している
- (14)災害の多様化に伴い、現場の安全性確保、及び効果的な消防戦術や部隊運用がなされている
- (15)減災に繋げるため、国内外の火災や災害事例などを分析・評価し現場活動に反映されている

2 2つの“神戸らしさ”にプラスの視点

この計画では、神戸のまちの将来像の実現に向けた安全・安心への「仕組みづくり」や「人づくり」「ものづくり」に繋げていく取組みに対し、新たに「“神戸らしさ”にプラスの視点」を2つ挙げ、震災以降取組んできた安全・安心への取組みにさらに磨きをかけることで神戸の安全・安心の質を高めるとともに、その取組みを国内外に発信していきます。

視点1 PLUS “こども”の視点

震災の教訓の伝承を始め、子ども達に命の大切さを伝え、生きる力を養う防災教育を積極的に展開することで、子ども達が次世代の防災の担い手として国内外に震災の教訓を発信したり、子ども達が大人になった時、地域の防災活動にも自主的に参加するなど、その取組みが地域防災力の向上にも繋がっていくと考えます。

また、子ども達自身を災害や事故から守っていくためには、日頃から大人が社会全体の中で見守り、育てていく必要があります。そのためには、“子どもを守る”視点であらゆる施策に取組んでいかなければならないと考えます。

消防局では、まちの将来像を実現するうえで、すべての取組みについて新たに“こども”の視点を加えることで、子ども達に様々な“体験”を通じた防災教育を行い、将来、防災福祉コミュニティを始めとした地域の防災を積極的に担ってもらえるよう、また、子ども達自身を災害などから守っていけるよう、地域や事業者、消防団等の協力のもと、取組んでいきます。

視点2 PLUS “おもてなし”の視点

「神戸らしさ」や「神戸からの発信」を考えたとき、震災という逆境をバネに、復興の歩みの中で進めてきたこれまでの安全・安心への取組みは、他都市にはない神戸の大きな財産といえます。

震災から16年以上たった今、私たちが震災で学んだ“助けあい”や“支えあい”の大切さといったものを“防災でのおもてなし”(=安全・安心ホスピタリティ)ととらえて市民に発信し、もう一度原点に立ち返って取組むことで、高齢者への防災対策や応急手当の普及など、地域の助け合いや支え合いに繋がっていきたいと考えます。

また、この“防災でのおもてなし”を広く国内外へ発信していくことで、神戸市の安全・安心の付加価値を高め、まちの賑わいや活性化へと繋げていきます。

消防局では、まちの将来像を実現するうえで、この“おもてなし”の視点で取組みを推進し、神戸に暮らし働く人はもちろん、外国人も含め、神戸を訪れる方に対するまち全体の安全・安心を高める施策に、市民や事業者、消防団等とともに、ねばり強く取組んでいきます。

3 5つの安全で安心な神戸のまちの将来像

神戸消防グランドデザイン 2025 では、神戸を取り巻く社会潮流など、その課題を解決していくうえで、2025年にあるべき5つの安全で安心な神戸のまちの将来像を描いています。

2025年-安全で安心な神戸のまちの将来像

将来像1 みんなで安全・安心に取り組むまち

将来像2 防災への心を育むまち

将来像3 命を大切に考え取り組むまち

将来像4 消防サービスが行き届くまち

将来像5 あらゆる災害に備えるまち

将来像1 みんなで安全・安心に取り組むまち

2025年のまちの姿

【協働の取り組み】

協働と参画のもと、地域や事業者、消防団、大学、NPO、行政など、防災に携わる方々がゆるやかに連携し、地域の安全・安心への取り組みが進められています。

【市民の取り組み】

住宅防火対策や日常的な事故の防止など、各家庭で安全・安心のための取り組みが進められています。

【事業者の取り組み】

災害の防止やリスクの軽減のため、各企業で自主防災体制への取り組みが進められています。

【行政の取り組み】

防災福祉コミュニティ活動への支援や、建築物や危険物施設に対する査察・指導に加えて、違反防火対象物の是正のための取り組みを進めています。

将来像2 防災への心を育むまち

2025年のまちの姿

【協働の取組み】

子ども達への防災教育を、地域や事業者、学校、行政が総がかりで実施し、世代を超えた防災への取組みが進められています。

【市民・事業者の取組み】

日頃から、安全に関する知識や技能の習得に努めるとともに、震災の教訓を国内外に伝える取組みを進めています。

【行政の取組み】

市民への防災教育を充実させるとともに、広報の充実・強化を進め、防災に役立つ情報を積極的に発信しています。

防災のプロとして、消防職員や消防団員への研修や訓練体制が充実・強化されるとともに、市民に開かれた消防署・消防団となっています。

将来像3 命を大切に考え取組むまち

2025年のまちの姿

【協働の取組み】

助かる命を救うために、応急手当の普及や、まちかど救急ステーションの充実（AEDの設置）など、市民や事業者と消防の「救命のリレー」への協働の取組みが進められています。また、医療機関等と消防の連携・強化による取組みが進められています。

【市民の取組み】

市民一人ひとりの救急に対する意識が高く、市民救命士講習の受講が進んでいます。それとともに、限りある救急車を有効に活用するため、適正な救急車の利用が図られています。

また民間救急講習団体（FAST）の認定など、多くの事業者が自ら市民救命士を養成し、市民・事業者によるAEDを活用した救命事案が増えています。

【行政の取組み】

必要となる救急車の適切な配置が進み、また、救急業務の高度化や救急隊員への研修教育体制が充実し、救急サービスが向上しています。

将来像4 消防サービスが行き届くまち

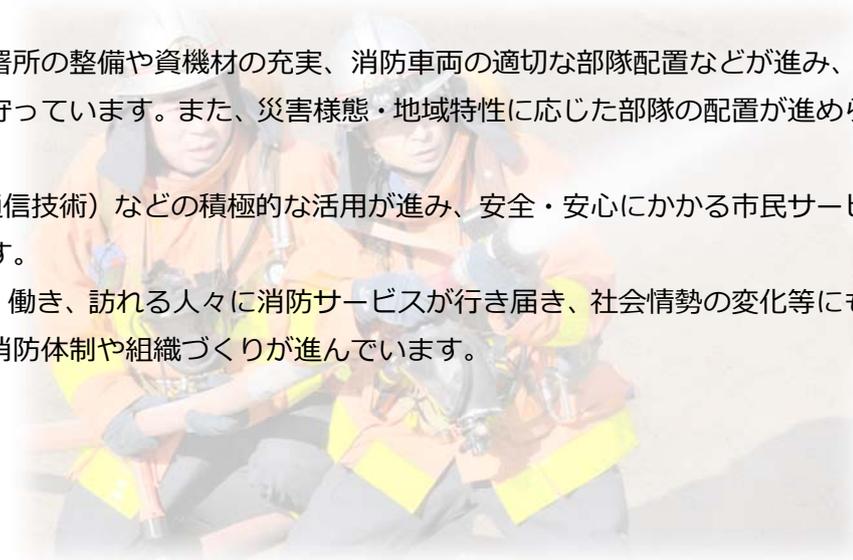
2025年のまちの姿

【行政の取組み】

必要な消防署所の整備や資機材の充実、消防車両の適切な部隊配置などが進み、日夜、市民の安全を守っています。また、災害様態・地域特性に応じた部隊の配置が進められています。

ICT（情報通信技術）などの積極的な活用が進み、安全・安心にかかる市民サービスが向上しています。

神戸に住み、働き、訪れる人々に消防サービスが行き届き、社会情勢の変化等にも柔軟に対応できる消防体制や組織づくりが進んでいます。



将来像5 あらゆる災害に備えるまち

2025年のまちの姿

【協働の取組み】

大学や研究機関など、行政と他機関との連携が深まり、市民・事業者などとも協働しながら、あらゆる災害への対応の強化に努めています。

【市民・事業者の取組み】

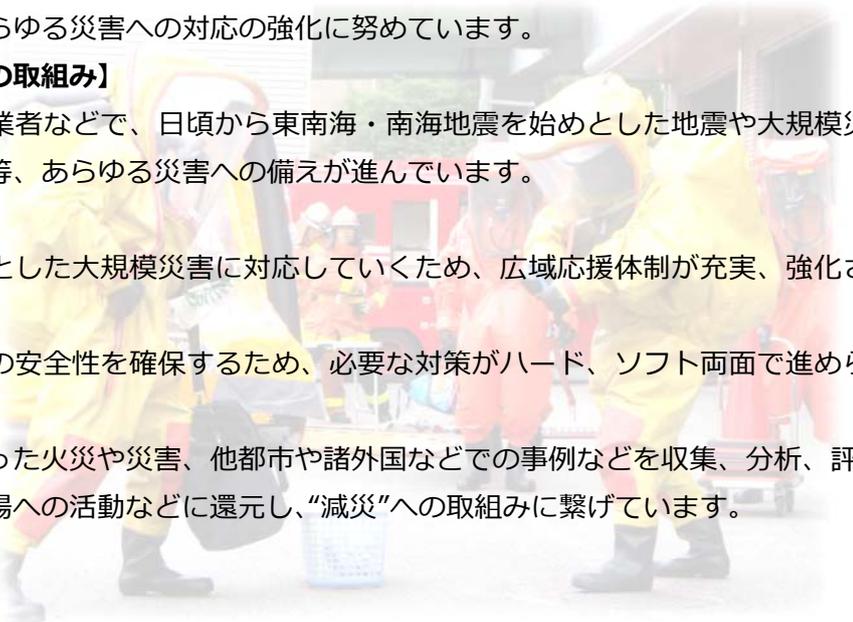
各家庭や事業者などで、日頃から東南海・南海地震を始めとした地震や大規模災害、風水害、火災等、あらゆる災害への備えが進んでいます。

【行政の取組み】

地震を始めとした大規模災害に対応していくため、広域応援体制が充実、強化されています。

災害現場での安全性を確保するため、必要な対策がハード、ソフト両面で進められています。

過去に起こった火災や災害、他都市や諸外国などでの事例などを収集、分析、評価し、その結果を現場への活動などに還元し、“減災”への取組みに繋げています。



4 計画の着実な実現

(1) 計画の着実な実現に向けて

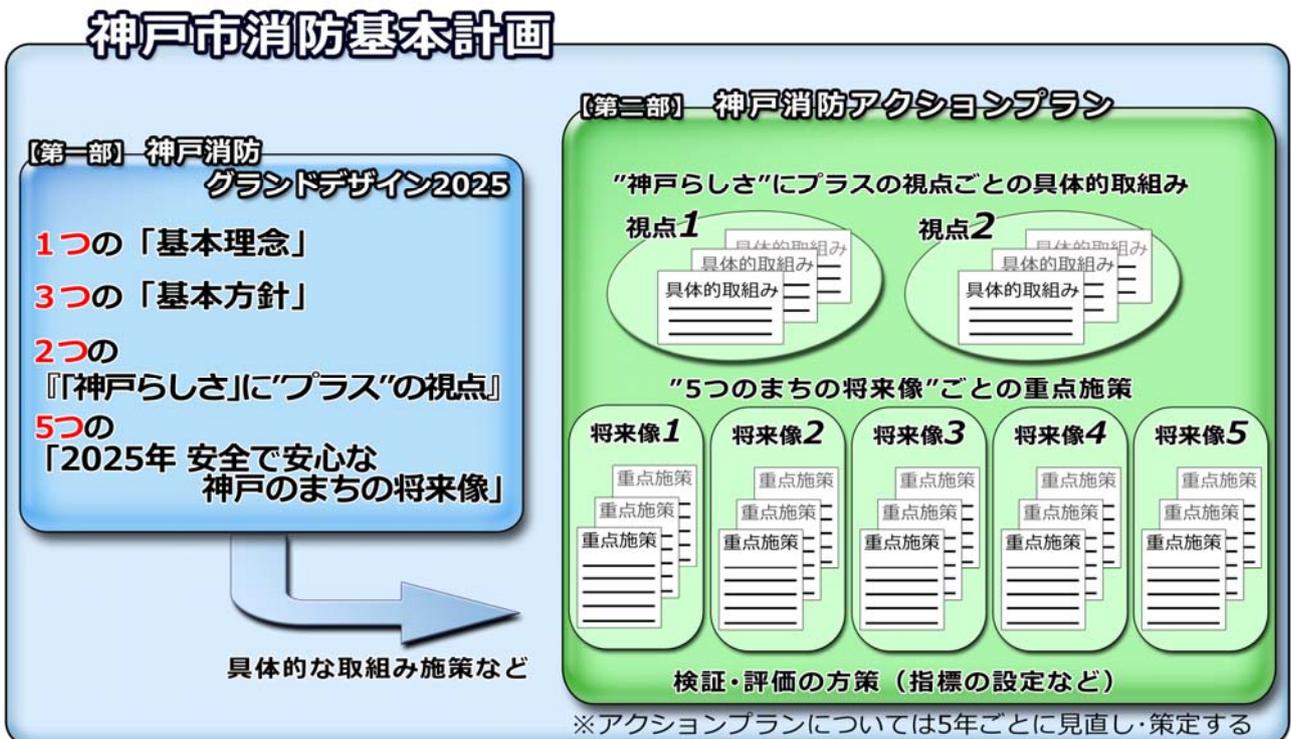
神戸市消防基本計画は、安全で安心なまちの将来像を実現するため、神戸消防グランドデザイン（15 年計画）と、神戸消防アクションプラン（5 年計画）の 2 部で構成し、神戸市基本計画〔神戸づくりの指針（15 年）・神戸 2015 ビジョン（5 年）〕と、連携、補完しながら計画を進めていくとともに、5 年ごとのアクションプランの見直し等により、時代に柔軟に対応できる計画としています。

また、神戸市消防基本計画の着実な実行に向け、神戸消防アクションプランで計画された具体的な施策については、毎年の計画の進行管理を実施するとともに、まちの将来像ごとに指標を設定し、PDCA サイクルにより検証・評価・見直しを行い、実現に向けて自助、共助、公助の意識を持って、市民、事業者、行政の協働により推進していきます。

(2) 具体的な施策について(神戸消防アクションプラン)

【第二部】神戸消防アクションプラン（別紙）は、【第一部】「神戸消防グランドデザイン 2025」で明らかにした、基本理念やまちの将来像を実現するため、5 年ごとの具体的な施策について定めています。

重点施策等の詳細は「神戸消防アクションプラン」を参照してください。



【第二部】 神戸消防アクションプラン2015

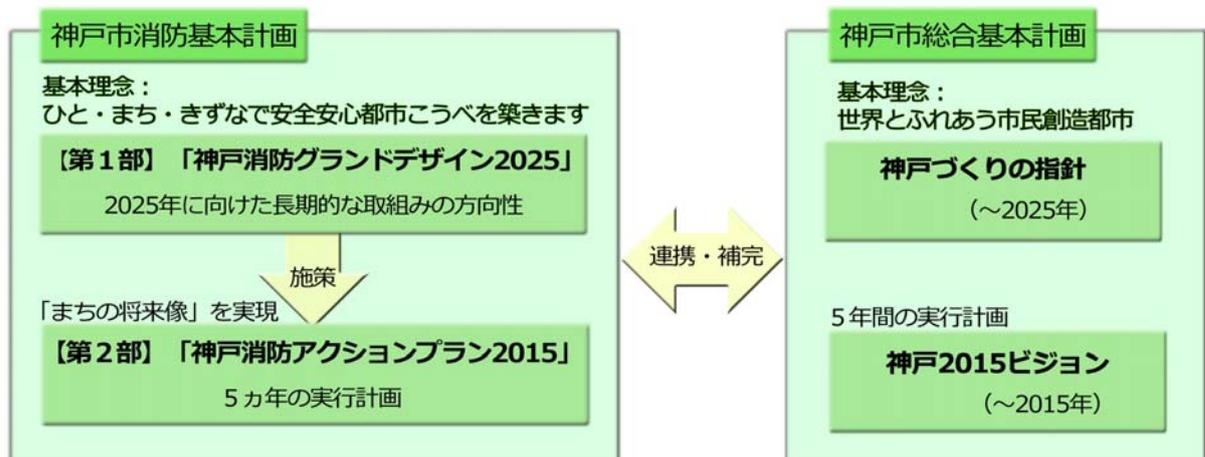
1 位置付け

神戸市消防基本計画の第一部「神戸消防ランドデザイン2025」は、神戸市基本計画と相互に補完・連携を図る部門別計画として位置付けられています。

「神戸消防ランドデザイン2025」では、「ひと・まち・きずなで安全安心都市こうべを築きます」という基本理念のもと、3つの基本方針と5つの安全で安心な神戸のまちの将来像を示すことで、将来に向けた取組みの方向性を明らかにしています。

第二部「神戸消防アクションプラン2015」は、神戸市消防基本計画の具体的な施策や事業などを定める“実行計画”として位置付けられ、5つのまちの将来像を実現していきます。（図4）

図4 「神戸消防アクションプラン2015」の位置付け



2 期間

「神戸消防アクションプラン2015」は5カ年の重点施策や具体的事業を定めた計画であり、「神戸消防ランドデザイン2025」の目標年次である2025年までの15カ年間のうち、前期5カ年間にあたる2011～2015年度を計画年次として策定します。（P2図2参照）

3 アクションプラン策定のポイント

- ・これまでの安全・安心への取組みを“神戸らしさ”にとらえ、新たに2つの“視点”をプラスし取組みにチャレンジしていく「神戸らしさにプラスの視点」での主な取組みを定めます。
- ・5つの「安全で安心なまちの将来像」実現に向け着実に取組んでいくため、具体的事業や指標を設定します。
- ・毎年度、検証・評価など必要な見直しによる進捗管理を行い、計画を着実に実行します。

4 構成

「神戸消防アクションプラン 2015」では、2つの「“神戸らしさ”にプラスの視点」での取組みを挙げるとともに、5つの「安全で安心な神戸のまちの将来像」の実現に向けた、15の「重点施策」で取組む「具体的事業」を盛り込んでいます。(図5)

図5 「神戸消防アクションプラン 2015」の構成

基本理念	ひと・まち・きずなで安全安心都市こうべを築きます		
基本方針	すべての「ひと」が日頃から防災について考え、取組みます 安心して暮らし集える、安全な「まち」こうべをつくります 人としての「きずな」を大切に、みんながともに助けあいます		
“神戸らしさ”にプラスの視点	plus“こども”の視点、plus“おもてなし”の視点		
	【5つのまちの将来像】	【15の重点施策】	【具体的事業】
みんなで安全・安心に取組むまち	(1)	地域のゆるやかな連携	(1)① 防災福祉コミュニティの活性化と地域組織間の連携支援 (1)② 魅力ある消防団組織づくり
	(2)	家庭での安全・安心	(2)① 住宅防火の推進 (2)② 家庭での日常的な事故等への備え
	(3)	事業所の自主防災体制の充実・強化	(3)① 防災対象物の安全確保 (3)② 事業所の自衛消防力の強化促進
防災への心を育むまち	(4)	防災教育の充実	(4)① 市民防災教育の充実 (4)② 子ども達への防災教育支援 (4)③ 震災を教訓とした防災福祉コミュニティ事業等の国内外への発信
	(5)	防災情報の発信	(5)① 広報の充実・強化 (5)② 防災に役立つ生活安全情報の提供
	(6)	研修・訓練の充実	(6)① 消防職員、消防団員の教育・訓練の充実 (6)② 消防人材育成の推進
命を大切に考え取組むまち	(7)	救命のリレー	(7)① 市民救命士の養成 (7)② 「救命のリレー」の充実・強化 (7)③ 医療機関等との連携強化
	(8)	救急業務の更なる高度化	(8)① 救急救命士の養成 (8)② 救急救命士の処置拡大への対応
	(9)	適切な救急車の配置と救急需要対策	(9)① 救急車の適切な配置 (9)② 救急車の適正利用の促進
消防サービスが行き届くまち	(10)	消防署所・車両の整備	(10)① 消防署所の機能維持・整備 (10)② 車両・資機材等の整備・更新
	(11)	ICTの活用	(11)① 消防新管制システムの構築 (11)② 消防救急無線のデジタル化
	(12)	組織・体制づくり	(12)① 災害様態・地域特性に応じた部隊の配置 (12)② 社会情勢の変化等に対応した組織・体制づくり
あらゆる災害に備えるまち	(13)	大規模災害等への対応	(13)① 消防防災ヘリの運航 (13)② 広域応援体制の強化 (13)③ 他機関との連携強化
	(14)	多様化する現場活動への対応	(14)① 指揮・安全管理体制の充実・強化 (14)② 消防部隊の災害対応力の充実・強化
	(15)	災害事例の分析評価と活用	(15)① 火災・災害事例の収集・分析等 (15)② 火災調査結果の有効な活用

5 主な取組み

(1)“神戸らしさ”にプラスの視点

神戸市では、阪神・淡路大震災後、防災福祉コミュニティの結成や震災の経験・教訓の発信など様々な事業を進めてきました。これらは現在、神戸らしさとなって神戸の安全・安心への取組みとして定着しています。

今後、このような神戸らしさにさらに磨きをかけるため、神戸市消防基本計画では“こども”、“おもてなし”という2つの新たな視点を加えました。

第一部「神戸消防グランドデザイン 2025」で描いた5つの「安全で安心な神戸のまちの将来像」の実現に向けて、これらの2つの視点を「プラス」して取組むことで、神戸の安全・安心の質をさらに高めていきます。

ア. plus“こども”の視点で取組む内容

○子ども達に命の大切さを伝え、生きる力を養い、また、将来の防災の担い手として育てるため、震災の教訓の伝承を始めとした防災教育を展開するなど、地域、学校、事業所とともに積極的に取組みを進めていきます。

○子供は社会の“宝”であり、日頃から大人が社会全体の中で見守り育てていく必要があります。

日常的な事故等の備えなど“子どもを守る”視点をもって、安全・安心の取組みを進めていきます。

具体的事業名	主な取組み
(2)―② 家庭での日常的な事故等への備え	・日常生活に係る事故防止の啓発
(4)―② 子ども達への防災教育支援	・地域と学校の連携による防災教育支援 ・防災ジュニアチームの育成 ・いのちのコンサートによる防災教育
(7)―① 市民救命士の養成	・子ども達に命の大切さを教える、地域と連携した市民救命士の養成

※表中の数字はP10 図5の重点施策及び具体的事業の数字に対応しています。

イ. plus“おもてなし”の視点で取組む内容

- 震災で学んだ“支えあい”や“助けあい”の大切さといった教訓を、“防災でのおもてなし”（＝安全・安心ホスピタリティ）ととらえて市民に発信し、今一度原点に立ち返って地域の防災力の向上に取り組むことで、これからの少子・超高齢化社会などにも対応していきます。
- 震災という逆境をバネに、復興の歩みを進めてきたこれまでの安全・安心への取組みをさらに推進し、神戸市の安全・安心を広く国内外などへ発信していくことで、防災でのおもてなしとしてまちの賑わいや活性化に繋がります。

具体的事業名	主な取組み
(4)ー③ 震災を教訓とした防災福祉コミュニティ事業等の国内外への発信	・他都市、海外の研修等の受入れと情報発信
(5)ー② 防災に役に立つ生活安全情報の提供	・製品事故情報等の発信
(6)ー② 消防人材育成の推進	・消防局人材育成基本計画に基づく信頼される職員の育成
(7)ー② 「救命のリレー」の充実・強化	・観光関連施設への AED の設置促進等 ・まちかど救急ステーションの普及
(11)ー① 消防新管制システムの構築	・119 番通報のバリアフリー化の推進

※表中の数字は P10 図 5 の重点施策及び具体的事業の数字に対応しています。

(2)まちの将来像ごとの主な取組み

神戸消防グランドデザイン 2025 で描いた、5つの“安全で安心な神戸のまちの将来像”について、神戸消防アクションプラン 2015 ではまちの将来像ごとにそれぞれ“3つの重点施策”（合計 15 施策）を、またその重点施策ごとに“具体的事業”を設定しています。（次頁以降でそれぞれ解説）

重点施策は、まちの将来像の実現に向け重点的に取組む施策であり、具体的事業は、各重点施策に沿って具体的に何をするのかを表します。

また、それぞれのまちの将来像には、その目標を表す代表的な指標を設け、重点施策や具体的事業の進捗状況や効果を把握し、確実な実行に向け取組みます。

1 「みんなで安全・安心に取り組むまち」

目指すまちの姿

- ・いざという時、地域みんなで助けあえるよう、日頃からゆるやかに連携している
- ・日常的な事故防止や住宅防火対策のため、家庭での安全・安心に取り組んでいる
- ・災害の防止やリスクの軽減のため、事業所や危険物施設などの自主防災体制が充実している

	具体的事業名	内 容
(1) 地域のゆるやかな連携	① 防災福祉コミュニティの活性化と地域組織間の連携支援	<p>市民（特に若い世代）、事業所など様々な主体が地域の防災活動に参加しやすい環境づくりを促進することで、それぞれの団体の連携を図り、地域活動の活性化につなげます。</p> <p>また地域の強いコミュニティの力を活かし、災害時要援護者の支援や、子ども達への防災教育の支援を行い、地域の防災力を向上していきます。</p>
	② 魅力ある消防団組織づくり	<p>地域の防災の担い手として中心的役割を担う消防団がより活性化するよう、女性や大学生に入団を呼びかけるほか、事業所にも協力を働きかけます。また、消防団施設や積載車等について、新たに策定する整備基準に基づき、ファシリティマネジメントの観点から適正管理を進めていきます。</p>
(2) 家庭での安全・安心	① 住宅防火の推進	<p>住宅用火災警報器、住宅用消火器、防災品、安全調理器具等の住宅用防災機器等の普及促進により、住宅火災の防火対策を推進するとともに、家庭内での出火防止の知識の普及や放火対策など、住まいや地域で発生しうる火災の予防について、意識啓発を強化します。</p>
	② 家庭での日常的な事故等への備え	<p>日常生活において発生する病気や事故の防止対策についての知識の普及に努めるとともに、ケガや急病などの際に、救急隊や医療機関に迅速に情報を伝える仕組みを構築します。</p>
(3) 事業所の自主防災体制の充実・強化	① 防火対象物の安全確保	<p>防火対象物等の特性、火災発生状況や地域の実状などに応じてより効果的な消防同意事務、危険物施設許可事務の審査及び既存の防火対象物等の査察を実施するとともに、消防法違反の是正を促進することにより、まちの安全性を確保します。</p>
	② 事業所の自衛消防力の強化促進	<p>防火対象物定期点検の実施率等を向上させることにより、防火対象物の自主防火防災体制を推進するとともに、危険物施設においては漏洩事故防止など、自主保安体制について一層の指導強化を図ります。</p> <p>また、災害時には危険情報を消防機関に提供する「FD（ファイヤーディフェンス）カード」の作成を推進します。</p>

2 「防災への心を育むまち」

目指すまちの姿

- ・震災や水害など、災害文化を伝えるため、世代を超えた防災教育が充実している
- ・普段から市民の防災意識が高まるよう、必要な防災情報が発信されている
- ・防災のプロとして、消防職員・消防団員への研修・訓練体制が充実し、市民に開かれた消防署・消防団がある

	具体的事業名	内 容
(4) 防災教育の充実	①市民防災教育の充実	災害時に限らず、平常時にも住民の先頭に立って活動を行う市民防災リーダーを30～50世帯に1人を目指し養成します。また市民の防災意識の向上を図るため、市民防災総合センター内の都市災害に対応した訓練施設などを活用し、疑似体験や災害時行動訓練等を実施します。
	②子ども達への防災教育支援	防災教育への防災福祉コミュニティ参画の促進、防災ジュニアチームの育成、小中学校における消防音楽隊による「いのちのコンサート」などの取組みにより、将来の防災の担い手となる子どもを対象とした防災教育の充実を図ります。
	③震災を教訓とした防災福祉コミュニティ事業等の国内外への発信	阪神・淡路大震災を教訓として生まれた防災福祉コミュニティを始めとした様々な取組みを、研修や視察の受入れ等を通じて、広く国内外へ発信していきます。
(5) 防災情報の発信	①広報の充実・強化	ホームページ等の情報媒体の効果的な活用や、消防音楽隊による広報演奏など、市民が防災に関心を持つことができ、かつ、わかりやすく伝えることにより、防災意識の向上に努めます。
	②防災に役立つ生活安全情報の提供	集中豪雨による気象情報や避難情報、火災調査結果に基づく類似火災防止情報や製品事故情報など、自らを守ることに つながる情報について、市民がその重要度を正しく理解できるよう、わかりやすく提供します。
(6) 研修・訓練の充実	①消防職員、消防団員の教育・訓練の充実	市民防災総合センター内の都市災害に対応した訓練施設を活用した訓練を実施するなど、消防職団員の研修・訓練内容を充実させることで、災害対応能力の向上を図ります。
	②消防人材育成の推進	市民から信頼される消防職員であるために、一人ひとりが安全・安心のプロフェッショナルとして、より専門的な知識及び技術を修得するとともに、それを活かすことができる体制を構築します。

3 「命を大切に考え取組むまち」

目指すまちの姿

- ・ 応急手当の普及が進み、命を救うため「救命のリレー」が充実している
- ・ 助かる命を救うため、救急業務の高度化の推進や、救急隊員への研修教育体制の充実が図られている
- ・ 救急サービスの向上のため、救急需要対策や適切な救急車の配置が進められている

	具体的事業名	内 容
(7) 救命のリレー	①市民救命士の養成	地域や職場の救急リーダーとして救急インストラクターを養成するとともに、民間救急講習団体（FAST）と連携した応急手当の普及を推進し、1世帯に1人を目指して市民救命士の年間約3万人養成を目指します。
	②「救命のリレー」の充実・強化	事業所などにAEDの設置を促進する「まちかど救急ステーション」の取組みを進めます。また、119受信時に管制係員が応急手当の口頭指導を実施するなど、「救命のリレー」を充実します。
	③医療機関等との連携強化	消防法改正に伴う傷病者搬送・受入れ基準に基づき、迅速かつ適切な医療機関への搬送を実施するなど、医療機関等との連携強化を図ります。
(8) 救急業務の更なる高度化	①救急救命士の養成	救急車に救急救命士が2名乗車する体制を維持します。 また、神戸市立医療センター中央市民病院で救急救命士の再教育病院実習を実施しながら、ドクターカーの運用などを実施するワークステーション方式での研修を充実させます。
	②救急救命士の処置拡大への対応	気管挿管や薬剤投与が実施できる認定救急救命士を養成し、各救急隊へ1名配置を目指します。また、更なる処置拡大に迅速に対応するため、メディカルコントロール体制の充実を図ります。
(9) 適切な救急車の配置と救急需要対策	①救急車の適切な配置	超高齢化社会の到来等からますます増加していく救急需要に対応するため、出勤が多い地域における救急車の適切な配置を検討し、救急体制の充実を図ります。
	②救急車の適正利用の促進	緊急性のない傷病者などの搬送を担う患者等搬送事業者を育成していくとともに、医療機関、福祉施設、福祉関係部署など関係機関との連携を強化して、適正な救急車の利用についての啓発を推進します。

4 「消防サービスが行き届くまち」

目指すまちの姿

- ・誰もが安心して消防サービスを受けるため、消防需要に応じた消防署や車両等が整備されている
- ・市民サービスの向上のため、ICT（情報通信技術）などを積極的に活用している
- ・社会情勢の変化に柔軟に対応するため、消防の組織づくり、体制づくりが図られている

	具体的事業名	内 容
(10) 消防署所・車両の整備	①消防署所の機能維持・整備	大規模災害時に防災拠点となる消防署所の自立性を確保するため、耐震化や機能維持を行うとともに、消防需要にあった適切な消防署所整備を計画的に行います。
	②車両・資機材等の整備・更新	車両や資機材等の経年劣化などにあわせて、計画的な更新を行うとともに、災害様態の多様化に対応した車両や安全資機材の整備について計画的に行います。
(11) ICTの活用	①消防新管制システムの構築	2012年3月の運用開始に向け、消防新管制システムを整備することにより、消防車が現場に到着するまでの時間短縮を進めるほか、車載する情報端末を用いた支援情報の提供を行い、現場活動の効率化を図ります。
	②消防救急無線のデジタル化	消防新管制システムの運用開始とあわせて、消防救急無線のデジタル化を図ることで、災害情報の収集や部隊統制の迅速化、及び無線通信情報の保護などを図ります。
(12) 組織・体制づくり	①災害様態・地域特性に応じた部隊の配置	災害様態が多様化する中、消防力のさらなる高度化・専門化が求められていることから、地域特性や災害種別にあわせて救助隊や特殊災害隊などの専門部隊の安全かつ効果的な運用・配置を行います。
	②社会情勢の変化等に対応した組織・体制づくり	人口動態や災害発生状況などの社会情勢の変化に応じた組織・体制づくりを進めることで、より効率的かつ効果的に消防サービスを提供していきます。

5 「あらゆる災害に備えるまち」

目指すまちの姿

- ・地震等大規模災害に対応するため、広域応援体制の整備や、大学など他機関と連携している
- ・災害の多様化に伴い、現場の安全確保、及び効果的な消防戦術や部隊運用がなされている
- ・減災に繋げるため、国内外の火災や災害事例などを分析・評価し現場活動に反映されている

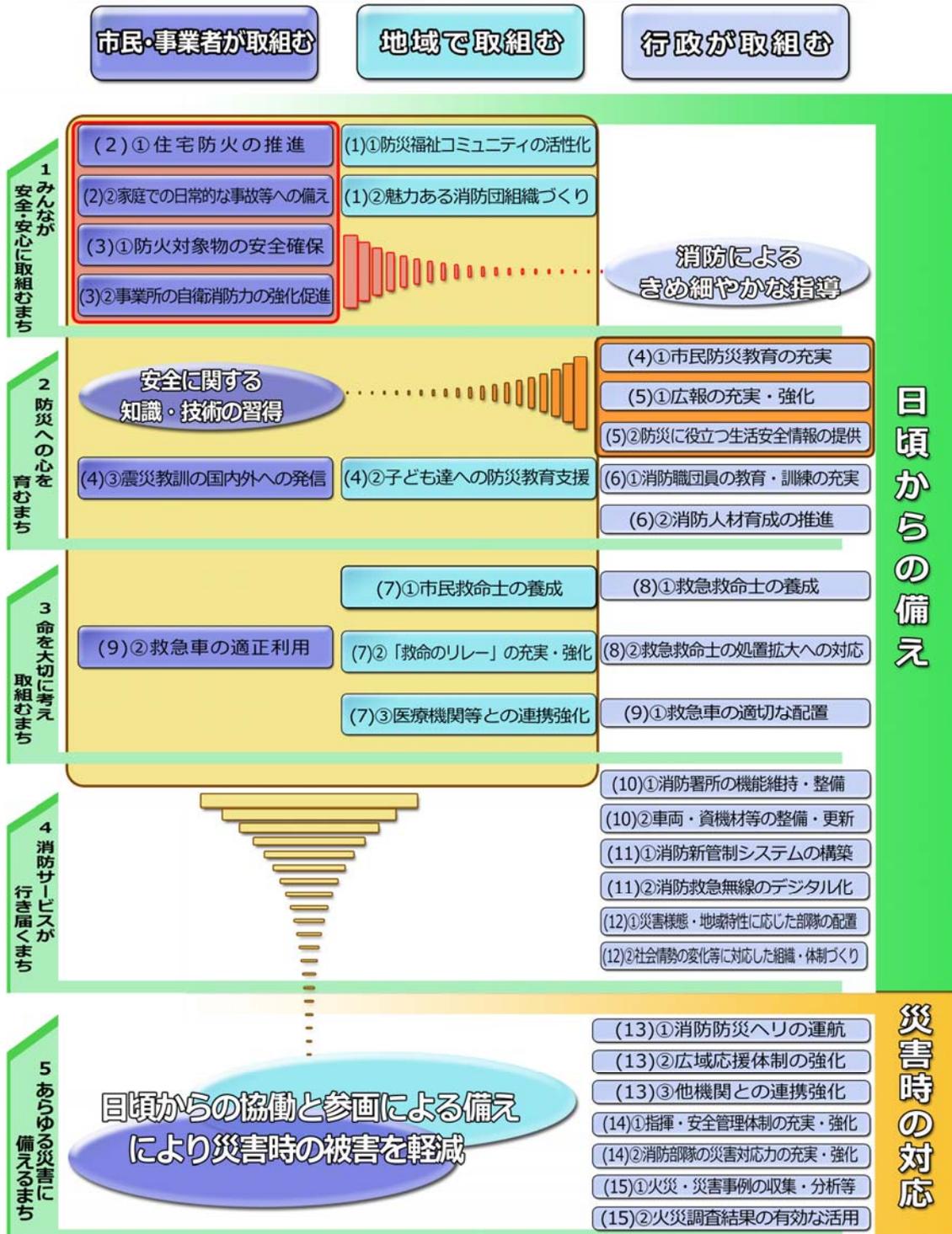
	具体的事業名	内 容
(13) 大規模災害等への対応	①消防防災ヘリの運航	兵庫県と共同運航している消防防災ヘリについて、林野火災や山岳救助事案への出動、災害発生時の上空からの情報収集や遠隔地への医師と連携した救急搬送など、その需要は高まっており、機動性を活かすことで市民の安全・安心を守ります。
	②広域応援体制の強化	国際消防救助隊、緊急消防援助隊への登録及び他都市消防機関との相互応援協定などに基づき、市内又は国内外において自治体単独では対応できない大規模災害が発生した際に、迅速に応援及び受援活動を行います。
	③他機関との連携強化	被害が広範に及ぶ大規模災害を始めとして、あらゆる災害に対応するため、消防機関だけではなく、警察や海上保安庁などの他の防災機関や大学・企業などの研究機関等との連携を強化します。
(14) 多様化する現場活動への対応	①指揮・安全管理体制の充実・強化	火災を始めとした災害発生時に効率的な部隊活動、安全管理、広報活動などを行う指揮隊の運用体制を充実させます。また、特別高度救助隊による救助指揮、及び複数傷病者が発生した場合の救急指揮体制の強化について検討します。さらに、警防活動教本を策定するなど、消防部隊が安全で効果的な活動を行えるよう取組みます。
	②消防部隊の災害対応力の充実・強化	救助に関する新たな技術の研究と技術の向上を図り、災害現場で使用できるレスキューロボットの開発支援を行うなど、専門性を持つ消防部隊を充実・強化します。
(15) 災害事例の分析と評価	①火災・災害事例の収集・分析等	市内だけではなく、国内外で発生した社会的に影響が大きいと判断される火災・災害事例を分析し、消防部隊の活動に反映させるとともに、市民生活における安全・安心に役立つ情報として活用し、また新たな消防ニーズの把握に努めます。
	②火災調査結果の有効な活用	出火原因を究明する技術を向上させることにより、火災原因の不明を減らしていくとともに、火災の原因となった製品の改善を促進していくなど、火災調査結果から導き出された教訓や情報を発信します。

安全安心都市こうべの実現に向けた市民・事業者・行政の役割分担

重点施策ごとに設定した具体的事業について、市民・事業者・行政の役割分担を図6で示しています。

市民・事業者及び地域は、日頃からの協働と参画により将来像1～3の実現に向けた具体的事業に取り組むことで、将来像5でのあらゆる災害に備えます。また行政は、将来像1実現へ向けた支援や指導、将来像2～5で設定した具体的事業を通じて市民の安全・安心を守る取組みを進めていきます。

図6 市民・事業者・行政の役割分担



将来像を把握するための指標一覧

指標は、重点施策や具体的事業の進捗状況や効果を把握するため、将来像の現状を表す代表的な目標値として設けるものです。アクションプランでは、各重点施策ごとに指標を設定し、そのうちの1つをまちの将来像における代表指標としています。

図7 2015年 安全で安心な神戸のまちの将来像ごとの指標及び目標値一覧

将来像1 みんなで安全・安心に取り組むまち			
代表指標	災害時要援護者支援訓練の実施回数		2015年 目標値
(1)地域のゆるやかな連携	「災害時要援護者支援訓練の実施回数」	31回 (計画策定時/平成22年度)	↑ 46回
(2)家庭での安全・安心	「火災による住宅部分の焼損面積」	2,861㎡ (平成21年中)	↓ 2,400㎡
(3)事業所の自主防災体制の充実・強化	「事業所の火災件数」(1千事業所あたり)	3.9件 (平成17~21年)	↓ 3.4件

将来像2 防災への心を育むまち			
代表指標	防災教育を実施した防災福祉コミュニティの割合		2015年 目標値
(4)防災教育の充実	「防災教育を実施した防災福祉コミュニティの割合」	73.8% (平成21年度)	↑ 78.5%
(5)防災情報の発信	「火遊びによる火災件数」	32件 (平成21年中)	↓ 18件
(6)研修・訓練の充実	「消防学校研修の習熟度」(アンケート)	81.2% (平成22年度)	↑ 向上

将来像3 命を大切に考え取り組むまち			
代表指標	救命率 (目撃者のあるCPA)		2015年 目標値
(7)救命のリレー	「市民によるCPR実施率」	40.5% (平成21年中)	↑ 45%
(8)救急業務の更なる高度化	「救命率」(目撃者のあるCPA)	13.8% (平成21年中)	↑ 15%
(9)適切な救急車の配置と救急需要対策	「救急隊数」	31隊 (計画策定時)	↑ 32隊

将来像4 消防サービスが行き届くまち			
代表指標	消防に対する満足度 (アンケート)		2015年 目標値
(10)消防署所・車両の整備	「全消防庁舎の耐震化率」	93.9% (計画策定時)	↑ 100%
(11)ICTの活用	「入電(119通報)から現場到着までの時間」	8.1分 (平成21年中)	↓ 短縮
(12)組織・体制づくり	「消防に対する満足度」(アンケート)	72.5% (平成22年度)	↑ 上昇

将来像5 あらゆる災害に備えるまち			
代表指標	他機関等と新たに連携した訓練・研修・協定等の回数		2015年 目標値
(13)大規模災害への対応	「他機関等と新たに連携した訓練・研修・協定等の回数」	現在の連携・協定 (計画策定時)	↑ +10
(14)多様化する現場活動への対応	「延焼率」(他の建物から出火し、別の建物へ燃え移った割合)	16.4% (平成21年中)	↓ 14%
(15)災害事例の分析評価と活用	「火災原因究明率」	91.8% (平成21年中)	↑ 95%

6 神戸消防アクションプラン 2015 の検証・評価

「神戸消防アクションプラン 2015」の着実な実行に向け、「“神戸らしさ”にプラスの視点」及び「安全で安心な神戸のまちの将来像」については、毎年度 PDCA サイクルによる検証・評価及び見直しを行います。

(1)「“神戸らしさ”にプラスの視点」の検証・評価

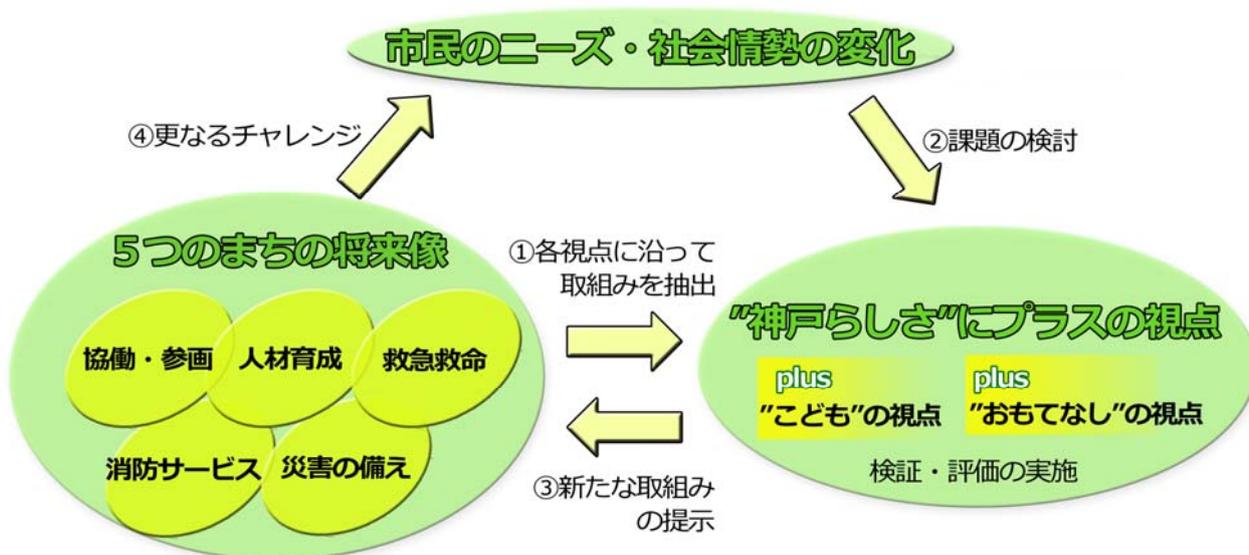
アクションプランでは「“神戸らしさ”にプラスの視点」ごとに取組みをまとめ、毎年度「plus“こども”の視点」「plus“おもてなし”の視点」の検証・評価を行います。

「“神戸らしさ”にプラスの視点」の検証・評価について、①各視点に沿って実施した取組みを具体的事業の中から抽出し、それらの内容や成果について進捗把握を行います。あわせて、その時々②社会情勢の変化や予期せぬ災害の発生などを原因とする新たな消防ニーズの検討を行います。そして③「“神戸らしさ”にプラスの視点」に沿った新たな取組みの提示を含めた各視点の検証・評価を行い、④次年度以降、更なるチャレンジしていきます。(図8)

また、「“神戸らしさ”にプラスの視点」での各視点は、5年ごとのアクションプラン改定にあわせ、必要に応じて設定・変更を行います。

今後は検証・評価を通じて各視点に沿ってチャレンジしていく取組みを増やし、またそれらが将来像における主な取組みに位置付けられることを目指し、さらに磨きをかけていくことにより、新たに“神戸らしさ”がプラスされた神戸の創造的な取組みにつなげていきます。

図8 「“神戸らしさ”にプラスの視点」検証・評価イメージ



(2)「安全で安心な神戸のまちの将来像」の検証・評価

「安全で安心な神戸のまちの将来像」の検証・評価について、まちの将来像の実現に向けた各重点施策の進捗把握、及び重点施策に1つずつ設定した15の指標の進行管理を通じて、毎年度まちの将来像ごと検証・評価を実施いたします。(P19 図7「指標及び目標値一覧」参照)

重点施策については、①各施策を構成する具体的事業における主な取組みの成果及び課題を把握することで、今後の方向性や具体的事業の見直しなどを検討します。

また指標について、各重点施策に1つずつ指標を設定していることから、まちの将来像ごとに3つずつ指標を設定していることとなります。そのうち各将来像を最も示している指標を代表指標と位置付けています。これら②代表指標を始め合計15の指標の進行管理を行うことで、5つのまちの将来像がどの程度実現しているのか状況把握を行います。

これら重点施策の進捗把握、及び指標の進行管理とあわせて、③社会情勢の変化や予期せぬ災害の発生などを原因とする新たな消防ニーズを考慮したうえで、④まちの将来像全体としての検証・評価を行います。

さらに5年ごとのアクションプラン改定にあわせて、重点施策そのものの設定・変更について検討していくことで、15年後の“安全安心都市こうべ”の実現を目指します。



【資料1】 次期消防基本計画策定経過

	次期消防基本計画検討会	庁内検討体制等
2010年 (平成22年)	6月22日 ◎第1回検討会開催	※幹事会開催(6月) ※職員意見募集の実施(6月~) ※消防署局部長巡回の実施(7月)
	8月6日 ◎第2回検討会開催	※幹事会、検討部会開催(7月)
	11月12日 ◎第3回検討会開催 パブリック・コメントの実施 (12月~1月)	※幹事会、検討部会開催(10月) 消防基本計画中間案の策定
2平 3年成	3月10日 ◎第4回検討会開催	※幹事会、検討部会開催(3月)
	3月末 ◎消防基本計画策定	

【資料2】 次期消防基本計画検討会委員一覧

※五十音順・敬称略

氏名	所属等	役職等
宇津 寛	神戸市自治会連絡協議会	会長
○ 梶木 典子	神戸女子大学家政学部家政学科	准教授
坂本 津留代	井吹台東防災福祉コミュニティ	会長
桜間 裕章	株式会社 神戸新聞社	論説副委員長
杉山 力子	神戸市婦人団体協議会	副会長
中神 一人	神戸市医師会	副会長
永松 伸吾	関西大学社会安全学部	准教授
柰木 和明	神戸市消防協会	会長
◎ 北後 明彦	神戸大学都市安全研究センター	教授
保井 剛太郎	三ツ星ベルト株式会社神戸本社	総務部長兼 神戸事業所長

◎会長 ○副会長

10名

神戸消防基本計画【概要版】

発行年月:2011年3月

編集・発行:神戸市消防局総務部庶務課
